

## 魅力ある学校づくりシンポジウム 実施報告

1 日 時 令和7年12月20日（土） 午前10時から11時50分まで

2 会 場 白岡市生涯学習センター 多目的ホール

### 3 内 容

(1) 第1部 白岡市の将来の学校づくりに向けた取組状況について

発表者：魅力ある学校づくり推進室長

不登校や特別支援教育のニーズ増、施設の老朽化など、白岡市が直面する多角的な教育課題について説明しました。これらの解決に向け、今年度中に「将来ビジョン」を、次年度には具体的な「配置計画」を策定することを示しました。市民への丁寧な情報発信と対話の機会を確保し、理解と協力を得ながら計画を推進していく決意を述べました。

(2) 第2部 基調講演「つながりを大切にした教育活動を育むチーム南小の学校づくり」

講師：白岡市立南小学校 校長 花車 進矢 氏

「笑顔いっぱい 光かがやく南の子 ～一生懸命がかっこいい～」を目標に、地域と共にある学校づくりについて講演されました。その中で、「つながりを広げ、学びを深める」をキーワードとし、元気な挨拶と返事の徹底、体験活動を通じた教育の充実、家庭・地域との連携の3つの柱による実践報告がなされました。これらの活動を通じ、学校・家庭・地域が信頼し合い、「チーム南小」として未来の宝である子供たちの成長を見守ることこそが本来の学校の姿であるとの考えが示されました。特に、集団生活の中でトラブルや事故が生じた際にも、全員が手を取り合い解決に向けて協力・連携できる「真の信頼関係」を築く重要性が強調されました。最後に、笑顔あふれ、共に学び、笑い、成長できる学校を目指し、これからも地域と共に歩んでいくという、熱い決意が述べられました。

(3) 第3部 パネルディスカッション「今後の白岡市立学校の教育について」

パネリスト：白岡市立南小学校 校長 花車 進矢 氏

浦和大学 特任教授 安原 輝彦 氏

横松 伸二 教育長

第1部及び第2部の内容を踏まえ、有識者を交えて今後の白岡市立学校の教育について議論を深めました。参加者の皆様から寄せられた質問や意見に対し、パネリストがそれぞれの専門的な見解を述べながら、未来を見据えた魅力ある学校づくりに向けた展望が語られました。（詳細は、別紙1のとおり）

#### 4 参加者 51名

#### 5 アンケート結果（46名分を回収：回収率 90.2%）

**質問1** 本日のシンポジウムに参加された目的を教えてください。

（複数回答可）

- |                             |    |         |
|-----------------------------|----|---------|
| 1 白岡市の将来の学校づくりに向けた取組状況を知るため | 26 | (26.8%) |
| 2 今後の学校教育のあり方に関心があったため      | 26 | (26.8%) |
| 3 地域活動や子育ての参考にするため          | 16 | (16.5%) |
| 4 有識者の方の講演を聞くため             | 15 | (15.5%) |
| 5 パネルディスカッションに興味があったため      | 11 | (11.3%) |
| 6 その他                       | 3  | (3.1%)  |
| 無回答                         | 0  | (0.0%)  |

**質問2** 本日のシンポジウムの開催を何で知りましたか。（複数回答可）

- |             |    |         |
|-------------|----|---------|
| 1 広報しらおか    | 10 | (17.6%) |
| 2 市公式ホームページ | 6  | (10.5%) |
| 3 市公式LINE   | 13 | (22.8%) |
| 4 学校からの案内   | 14 | (24.6%) |
| 5 知人の紹介     | 6  | (10.5%) |
| 6 その他       | 8  | (14.0%) |

（市教育委員、審議会での案内など）

- |     |   |        |
|-----|---|--------|
| 無回答 | 0 | (0.0%) |
|-----|---|--------|

**質問3** 第1部「白岡市立学校の現状について」の説明内容は、今後の学校づくりを考える上で参考になりましたか。（いずれか1つに○印）

- |                |    |         |
|----------------|----|---------|
| 1 非常に参考になった    | 19 | (41.4%) |
| 2 参考になった       | 23 | (50.0%) |
| 3 普通           | 2  | (4.3%)  |
| 4 あまり参考にならなかった | 2  | (4.3%)  |
| 5 参考にならなかった    | 0  | (0.0%)  |
| 無回答            | 0  | (0.0%)  |

**質問4** 第2部基調講演「つながりを大切にした教育活動を育むチーム南小の学校づくり」の講演内容は、今後の学校づくりを考える上で参考になりましたか。（いずれか1つに○印）

- |             |    |         |
|-------------|----|---------|
| 1 非常に参考になった | 33 | (71.7%) |
|-------------|----|---------|

2 参考になった	13 (28.3%)
3 普通	0 (0.0%)
4 あまり参考にならなかった	0 (0.0%)
5 参考にならなかった	0 (0.0%)
無回答	0 (0.0%)

**質問5** 第3部パネルディスカッション「学校と地域のこれからの関係性について」の内容は、今後の白岡市立学校を考える上で参考になりましたか。(いずれか1つに○印)

1 非常に参考になった	16 (34.8%)
2 参考になった	23 (50.0%)
3 普通	3 (6.5%)
4 あまり参考にならなかった	1 (2.2%)
5 参考にならなかった	0 (0.0%)
無回答	3 (6.5%)

**質問6** 本日のシンポジウム全体を通して、総合的な満足度をお聞かせください。(いずれか1つに○印)

1 非常に満足	20 (43.5%)
2 満足	18 (39.1%)
3 普通	4 (8.7%)
4 やや不満	2 (4.3%)
5 不満	0 (0.0%)
無回答	2 (4.3%)

**質問7** 本日のシンポジウムの感想やご意見等がございましたら、お書きください。

・別紙2のとおり

**質問8** 差し支えなければ、以下についてご記入ください。

※ 記入があったもののみを集計

1 お住まいの地域

小久喜：14 新白岡：5 篠津：3 上野田：2

白岡：2 西：2 菁莪地区：1 南小学校区：1

久喜市：2 加須市：1 さいたま市：1 川口市：1

市外：4

2 年代

40代：11      50代：14      60代：5      70代：8

3 性別

男性：25      女性：12

4 お子さんがいる場合（○印）

(1) 未就学児：2

(2) 小学生：8

(3) 中学生：9

(4) 高校生：6

(5) 大学生：7

(6) その他：4



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

## パネルディスカッション要旨

パネルディスカッションでの議論の内容を、次の3つの項目に整理しました。

### 社会で生き抜く力と Well-being（幸福）の追求

・非認知能力へのシフトと評価の在り方：これからの時代は、従来の学力（認知能力）だけでなく、コミュニケーション能力や自己管理能力、他者への信頼感といった「非認知能力」が重要であると述べられました。特に、不登校傾向にある子供の幸せを考えたとき、学校が単なる学習の場ではなく、個性が尊重される安心な居場所であるべきとの見解が示されました。その具体的なアプローチとして、諸外国の事例を参考に、社交性や個性を重視した評価（成績表）への転換など、保護者の価値観を変えていくための工夫も議論されました。

・失敗を許容する体験活動の重要性：大人が先回りしてルールを敷く「過保護・過干渉」が子供の成長を阻害しているという課題に対し、学校と地域が連携して「失敗できる機会」を提供することの重要性が示されました。実体験を通じて試行錯誤することが、変化の激しい社会を生き抜く「賢さ」につながるとの見方が示されました。

### 持続可能な地域連携の構築

・責任の所在と対話による信頼構築：地域住民から「学校のために何かしたい」という高い志が示される一方、ボランティア活動中の事故に対する責任の所在や、学校側の負担増への懸念が、連携のブレーキになっている現状が指摘されました。これに対し、計画の段階から学校と有志が対話を重ね、課題を共有する「熟議」の重要性が改めて強調されました。

・「遠慮」をなくす関係性づくり：学校側が「地域に頼ることは申し訳ない」と考え、地域側が「学校の迷惑ではないか」と遠慮し合う状況を打破するため、互いに「できること・できないこと」をはっきり伝え合える、風通しの良い関係づくりが必要であるとの意見が出されました。

## 多様化する教育現場と未来への展望

・教職員の意識改革と地域に開かれた組織運営：学校現場では、校長のリーダーシップのもと、教員が子供の成長に注力できる環境づくりが進められています。従来の「トップダウン」ではなく、若手教員や子供たちのアイデアを柔軟に吸い上げる組織運営が、教職員の働く喜びを高め、教育の質を向上させている実態が報告されました。

・大人が「褒め、認める」ことで生まれる地域の活力：学校が地域に心を開き、子供たちが地域社会へ飛び出すことで、地域の大人たちが子供を「褒め、認める」という貴重な交流が生まれます。地域の大人が温かく受け入れることで、子供たちは「自分たちは認められている」という自信を持ち、「また地域に関わりたい、いつかここへ帰ってきたい」という郷土愛を育みます。この「子供と大人の信頼の循環」こそが、将来の地域全体の活力に繋がることが示されました。

・時代に合わせた「当たり前」のアップデート：ICTの普及や社会情勢の変化により、10年前の常識が通用しない時代において、学校・行政・地域がそれぞれの固定観念（例：役所や学校は平日の日中だけ動くもの、など）を捨て、多様な活動形態を受け入れていく必要性が示されました。歴史や先人の知恵に学びつつ、30年後の未来を見据えて「多様性を力に変える」学校づくりを進めることへの期待が示されました。

## 質問7の詳細について

## 教育のあり方やビジョンに関すること

- ・学校が変わってきていることが良くわかりました。ただ、この地域にたくさんの学習塾があることを考えれば保護者の意識を変えること。それが大変だと思いました。
- ・これまでの考え方やあり方を見直す今この時期に、どんな教育が必要か積極的に多くの人に加わってアイデアを形成して、「やってみる」ことが大切だと感じた。
- ・子どもにとって何が大切で、そのためには何が出来るのかを考える機会になりました。
- ・心の3大欲求が、つながり・有能性・自発性（自己決定）というそうです。自分で考え、自分で行動できる子どもに育てる方向性を大事にしてほしいです。（例えば、運動会に出る種目を自分で決める、時間割を自分で決める、そして振り返りをする。先生は子どもの行動を後押しするだけ。先生の役割も変える必要あり。）
- ・教育の理念を掲げて、学校、保護者、市と共有してほしいです。理念の下に細かな方針も掲げ、それを基に学校、地域、保護者、市が共通理解の下子育てをすれば、保護者は「こういう風に育てればいいんだ」と迷いがなくなり、学校と保護者が目指すべき目標が同じになるので、より連携が強くなり、結果子ども自身も迷いなく育つことができると思う。理念は子どもが幸せになるために。
- ・安原先生がお話されていた体験が重要という点が、学校教育の中で徐々に取り入れられているということを知ることができました。
- ・人口減少になってしまった社会に合う学校像とはどのようなものなのか。どのように運営し、児童生徒に何を与えられるかが大事になってくると思う。子どもたちが未来に向けて人間的に豊かになっていく生き方を見つけられる場としての学校が生まれればよいと思う。
- ・社会は相互作用で成り立って発展していく。教育も学校・地域・家庭の相互作用によって子どもは成長していく。学校だけが頑張る、家庭がやればいい、地域は関係ないでは教育は成り立たない。人任せはダメ。お互いの協力姿勢が見える・感じるときにお互いが頑張れる。教育に対して他人事にならず、お互い様を大切にしていきたい。
- ・花車校長、安原先生の話から学校教育の本質が見えてきました。
- ・子どもたちの自律には大人が寄り添う、見本を示す、共有・共感、共に成長す

るということは、学校だけでなく、すべてに共通することだと思いました。

## 学校運営協議会や地域連携に関すること

- ・南小の“つながりを大切にした教育活動”（チーム南小の学校づくり）がとても参考になりました。
- ・教育や学校と地域の連携について深い話を聞くことができ、とても有意義な時間でした。
- ・南小の発表がよかった。自分の地域でも参考にしたい。
- ・学校と地域の関わりと行動に移せるような仕組みができるとよいと思いました。
- ・地域ボランティアを増やしていきたい。
- ・11月に篠中・篠小・東小の学校運営協議会の情報交換会が開催されましたが、教育委員会の職員は誰も参加していませんでした。大事な情報交換会ですので、今後必ず参加してください。
- ・学校運営協議会の情報交換会は、今後すべての学校の協議会が参加して情報交換できる場を設けてほしいと思います。
- ・学校応援団の制度について興味深く聞かせていただきました。ふれあいステーションについてもいいなと思います。
- ・各地域と学校とのつながりを大切にして、地域の中心的な施設としての学校のあり方の一例としての南小の話題は参考になった。子どもたち、地域の人々が積極的なかかわりを持っているところがよかったと思う。教職員たちも大変だと思うが、その場を提供すれば各自が自分で考えて行動できるところがよかった。
- ・地域と学校の連携、責任の所在について考えさせられました。
- ・以前勤務していた学校で地域の方のボランティアの仕事として「印刷ボランティア」というのがありました。先生方が印刷してほしいものを前もって出しておいて、それを職員室とは別にある印刷機を使って印刷してもらっていました。時間的に余裕があるものに限られますが、かなり有効に機能していました。
- ・原案の地域連携（コミスク・地域部活）ではまだ足りないことが多いと思った。
- ・南小の取組や考えが素晴らしかった。
- ・地域とのつながりの大切さがとてもよくわかりました。
- ・南小では地域との交流活動がとても多いことに驚きました。地域の方が来校するばかりでなく、児童も地域に出てボランティアとして交流を図ることでますます距離が近くなっていることがわかりました。
- ・南小福祉課と主任児童委員のカフェは、話を聞いてもらいたい保護者などが一歩前進する、ハードルを下げるような工夫がとてもよいと思いました。

- ・学校・地域の連携は大切だとあらためて思いました。
- ・第3部よかったです。スポ少指導者として共感しかなかったです。
- ・南小の活動も知ることができて自分の子どもの学区との違いなども知れて良かった。

## シンポジウムへの意見と今後の期待

- ・次期の教育振興基本計画の策定にあたっては、ぜひ安原先生を有識者として入れてください。
- ・パネルディスカッションにおいて、市民の生の声が聞けたのは良かったです。このシンポジウムの意義が再認識されました。
- ・たくさんの意見や考えが出て（聞くことができて）参考になった。
- ・この意見を受けて白岡市としてどんな学校をつくるか、具体的な案を聞くことができず毎回残念です。
- ・地域との関係は重要だとは感じているが、学校の取組なので、これから市としてどのような学校（例えば義務教育学校）をつくる考えがあるのか聞きたかった。
- ・趣旨がぼやけていて、シンポジウムの目的がよくわからなかった。
- ・パネルディスカッションの時間配分が悪く、展開がうまくできなかったように思う。
- ・参加者からの意見はどのようなものができるかが未知なため、それをうまくまわして広げていただければよいと思う。
- ・今回は1時間半でしたが、2時間でパネラーの意見交換の時間がもっとあったほうがいいのではと思いました。
- ・安原先生のお話の内容はいつもわかりやすく、いろいろな角度からで参考になります。次回もぜひお願いしたいです。
- ・小学校のこともいろいろわかってよかったです。感動しました。
- ・シンポジウムの時間を長くしたほうが良かったと思う。
- ・今年度末までに具体的なスケジュールが策定されるとのこと。これからの白岡を左右する大切なことと考えます。ぜひ、具体的で現実的な策定を強く期待します。本日は、運営・企画・発表と本当にお疲れ様でした。
- ・こうした取り組みに感謝します。日々の積み重ねです。
- ・それぞれの立場の方々の意見が聞けて良かった。
- ・パネルディスカッションの時間がもう少し長くても良かった。
- ・第1部で非常に良い資料を作られているのに説明時間が短かったので、もっと詳しくお聞きしたかった。

- ・第1部は課題を積み上げているだけで具体的にどうしていくのかが語られず残念だった。
- ・第1部は簡潔に現在、今後の問題がまとめられていて分かりやすかった。第2部は南小の取り組みについて具体的な例を交えてあり、参考になることが多かった。第3部は事前に質問を受け付けてもよかったのではないのでしょうか。いろいろな質問が出て難しいこともあるかもしれませんが、あの場で手を挙げ質問をするほうが少ない場合、積極的な意見交換がよりできるかと思いました。